

医薬品分野で有機合成技術を活かして発展する、笑顔の研究開発者集団の挑戦

株式会社ナード研究所

国内有数の先端医療技術が集結する医療都市神戸のポートアイランド地区。ここに立地する「神戸健康産業開発センター(通称:HI-DEC)」で、成功までに多額の資金と時間を必要といわれる医薬品分野で、確実に実績を伸ばす「ナード研究所」について代表取締役北庄司健氏にお話をうかがいました。



【会社概要】 入居BI:神戸健康産業開発センター(HI-DEC)
 代表:北庄司健
 所在地:[本社]兵庫県尼崎市西長洲町2丁目6番1号
 [神戸研究所]兵庫県神戸市中央区港島南町6丁目7番4号 ハイデック3F
 業種:PET使用薬剤の開発等
 URL:http://www.nard.co.jp/index.html

●会社のおいたち/なぜ、入居したのか?

約40年前にスピノフ、受託研究のパイオニア

— 主事業である受託研究は、いつ頃から取り組まれていたのでしょうか?

会社は1972年3月に設立しましたので、2012年3月で設立40周年になります。海外の情報はわかりませんが、当時から医薬品、接着剤や特殊塗料の材料系の受託研究をしていましたので、国内では受託研究のパイオニアと言えるかと思います。ただ、社会的信頼があったわけではないので、当時は創業者の人脈で新規顧客を開拓してきました。累積赤字を解消するまでに、設立から10年がかりでした。



北庄司社長

創業当時は個人独立採算、今はグループ独立採算。当社には営業がいません。

— 御社の約9割が研究者とのことですが、営業職はいないのでしょうか?

私自身は11年目に入社したので、詳しくはわかりませんが、創業当時は個人独立採算制だったと聞いています。それが自然発生的にグループになって、今ではグループ独立採算制になっています。私が入社した時には、すでにグループ独立採算制でした。ベースの給与があつて利益を会社と従業員が折半するわけですが、昔から成果主義の風土がありました。また、当社には営業職がいません。正確には東京に1名在籍しているだけです。研究開発者が自ら受注して、自ら納品するというスタイルを現在も貫いています。



神戸研究所も担当する中尾研究員

時の運とIMの対応力が入居の決め手

— 何がきっかけで、HI-DECを選んだのですか?

5年前にHI-DECに入居しましたが、当時は研究所が手狭になって新しい拠点を探していました。他の地域も検討しましたが、施設や設備の条件が合わずに話は流れてしまいました。社内の会で「神戸にもインキュベーション施設があつたね」という話題になり、早速HI-DECに連絡したところインキュベーションマネージャー(通称:IM)の迅速な対応で諸々の課題を解決していただきました。300㎡という広さと電力量の問題をクリアしていたのもHI-DECだけでだし、危険物倉庫の設置などIMが関係機関に交渉して対応してくれました。

●入居…その後の成長、展開

HI-DECは自主開発製品の研究開発拠点

— 本社から取って離れた場所に開発拠点を置いているのですが、なぜでしょうか?

当社は、受託合成、受託研究で伸びてきた会社ですが、顧客の景況に左右されない自主開発製品も必要だと考えました。私が社長に就任してから、新しいことを実現する部門としてコーポレート研究部を発足させました。以前から各グループが自主開発に取り組んできたのですが、兼務にすると受託合成、受託研究が忙しくなるとどうしても自主開発は後回しになる。これでは駄目だということで新しい組織を発足しHI-DECに置き、PET用薬剤をはじめとした自社ブランド製品の研究開発拠点にしました。受託製造、受託研究をしていればある意味リスクを冒さなくて済みます。でも当社は新しいものにチャレンジする道を選択しました。HI-DECはその象徴でもあります。そういう姿勢もあつてか、当社は企業風土も明るく、チャレンジ精神旺盛な人材が自ら事業を引っ張ってくれています。

— 研究開発の段階にある会社にとって、IMはどのような存在でしょうか?

正直申し上げると入居して初めてIMの本当の価値に気付きました。IMが常駐して、いつでも相談に乗っていただけるというのは本当に魅力です。研究開発、事業推進はタイミングが重要です。相談するとあらゆることに迅速に対応していただける。まさに当社の専属アドバイザーのようです。施設や設備に関する相談をはじめ、専門人材の紹介など非常に助かっております。当社は、顧客の機密性の高い開発の受託をしていますので、研究者は対外的に技術を発表する機会がないため、年3回研究発表会を開催し社員間の知識共有や技術研鑽を行っています。そこで招聘する特別講師も、IMに紹介いただきました。

またバイオ系の展示会に参加させていただき取引先の拡大にもつながりました。こういうイベント情報や交流会の場の提供は本当に役立ちます。今後、新しいことにチャレンジしようとされる企業は、困ったことがあれば何でもIM室に相談されることをお勧めします。

●そして、これから…/今後の課題

HI-DECでの成果を生かし、研究所を設立へ

— 同じポートアイランド地区内に、自社拠点を建てるとうかがいました。

HI-DECでは約8000万円の設備投資をしましたが、これらを回収する目途が出てきました。研究成果を生かしてさらなる成長を目指したいと考えて、ポートアイランド内に研究所を建設することを決定しています。ここに当社のライフサイエンスの研究機能を集約させます。空港や新幹線から近いということも魅力です。周囲には開発のパートナーまたは顧客として当社製品(研究用試薬)を提供する研究機関や大学が集積しており、交

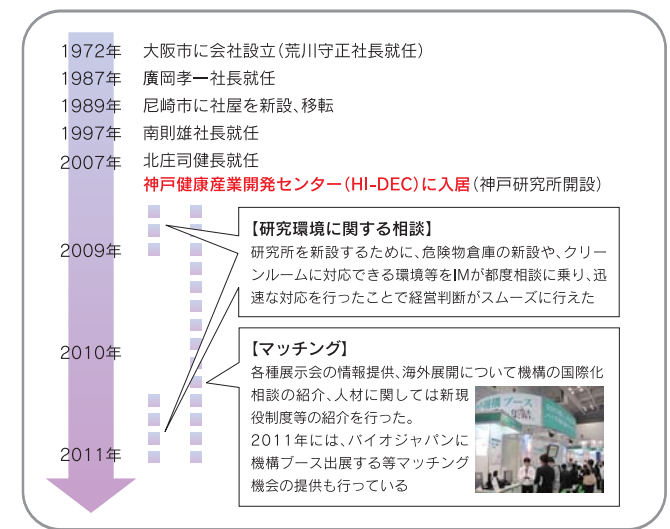
流も盛んです。

新興国に負けるわけにはいかない、国際的研究開発型企業を目指す

— 御社の今後の展望をお聞かせください。

受託合成は中国やインドが台頭してきています。コスト競争では勝負になりません。最近では受託研究の分野でも新興国が追いついてきます。我々は常に一歩先を目指していかなければいけません。単なる受託ではなく、顧客が不足している技術を我々が補完する実力をつけて、パートナーといった存在にならなければいけません。

また、これからは欧米、特にアメリカに事業展開を図っていきたいと考えています。現在、東京での営業拠点の構築、生産工場での体制構築を急ピッチで進めています。そこでの人材確保などの命題を解決しながら、将来的には世界が飛びつく独自技術を開発し、ノーベル賞が狙えるような高いレベルの研究を目指したいと考えています。



HI-DEC
峯山祐治 チーフ IM

同社のように、HI-DECを研究拠点として活用される企業が多いです。研究拠点としてハード面での対応ももちろんですが、研究者同士の交流の場を設け、新たな連携の推進も行っています。ナード社に対しては、一つの命題である人材確保についても、全国組織のネットワークを活かして情報提供したいと考えています。

BI紹介

神戸健康産業開発センター(通称:HI-DEC)
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6-7-4 電話:078-304-6227
 竣工:2006年11月 賃貸面積:30㎡~80㎡(全24室)
 URL http://www.smrj.go.jp/incubation/hi-dec/

神戸市がポートアイランドで10年前から推進している「神戸医療産業都市構想」の中核施設の一つとして2006年秋にオープンし、主に医療、健康、福祉関連分野で新たな事業展開を目指すベンチャー企業等に対し、同エリアの集積機能を有効利用しつつ支援を行うインキュベーション。全室ウエットラボ対応で創業や物理化学実験等の実施が可能で、少ない初期投資ですぐに事業が開始できる施設設計。IM室には、中小機構と(財)先端医療振興財団から、医療分野での経験が豊富な民間企業出身の4名のIMが常駐し、日々の支援活動を行っている。

中小機構BIデータ

BI活動事例

BI入居企業活動